

鹿兒島縣下に於ける蝶類の分布に就て

農學得業士 岩 田 收 二

凡そ蝶類の分布は其仔蟲の食物となるべき植物の種類に據るものなれども、更に其源を尋ねれば地方の氣候如何は深き關係を有するものなりとす。之れ植物の分布も亦氣候に左右せらるゝこと多きを以てなり、即ち或植物は一地方に限られ従て其植物を仔蟲の食とする蝶は其地に限らるゝに至る、而して蝶類を通覽するに寒帯より温帯温帯より熱帯に至るに従つて漸次其産する種類を増加するものにして、本邦にありても稍や熱帯の性質を帯びたる臺灣は其之に産する種類遙かに内地に優るものとす。

抑も我が日本は地狹長にして、北は寒帯近き樺太千島北海道より、南は臺灣の如き半熱帯に互れり。故に其氣候多様にして植物も亦多様なり、従て茲に産する蝶類も寒帯温帯及び熱帯特有の種類相雜居するの觀あり、故に其種類も土地面積の狹小なるに比較的多數を産し、實に現今學術上明かに知られたる種類は二百七十一種以上なりとす、其面積略ぼ相等しき英國に比すれば遙かに多く、又北米合衆國の如き廣大なる土地の四百五十種に比するも、土地の割合には豊富と云ふべきなり、去れば其動物地理學的の分布に就きて未だ判然たる區畫の線は決定せられざるなり。「リーチ」氏によれば北海道は舊北區(Palaearctic Region)固有の種類に富み東洋區(Oriental Region)的の種類に乏しく、又本州四國の如きは比較的舊北區の性質あれども北海

道に比すれば東洋區の種類多し。九州に至りては益々東洋區の種類多くを占め舊北區の性質は減少す。更に琉球諸島に至りては殆んど東洋區殊に印度馬來地方に産するもの、性質を呈し舊北區の種類に至つては極めて分布廣き二三の種類を産するのみ。而して東洋區のものには全數の五分の四を占め内地と同種のもものは僅かに五分の一に過ぎずと云ふ。要するに現今日本蝶類の分布状態は北部地方は舊北區に屬し南下するに従つて漸く東洋區の性質を増加し、遂に純然たる東洋區的の性質を帯べるは明らかなる事實なりとす。然らば其舊北區と東洋區との境界線は果して那邊に存在するや、之れ斯學上の一大問題なりとす。現今斯界に知られたる本邦産蝶類を各科に分ち、之に對照の爲め我が鹿兒島縣下に産するものを地方別にし、各其種類數を擧ぐれば次の如し。

第一號表

鳳蝶科	粉蝶科	斑蝶科	蛺蝶科	蛇目蝶科	天狗蝶科	小灰蝶科	本邦産	本州産	九州産 <small>離島を含む</small>	鹿兒島地方 <small>鹿兒島縣</small>	島縣産 <small>熊毛郡 大島郡</small>	沖繩縣産 <small>(琉球)産</small>	臺灣産
24	31	10	70	30	2	62	24	10	11	11	11	11	19
10	11	1	36	18	1	36	10	10	6	2	2	7	12
7	7	1	10	2	1	7	7	7	7	1	1	7	7
7	3	1	6	1	1	4	7	7	3	1	1	7	4
11	7	9	19	4	0	10	11	11	7	9	4	11	10
19	21	9	38	12	1	30	19	19	21	9	12	19	30

合 計	弄 蝶 科
271	42
136	23
103	16
73	12
39	4
26	3
66	6
153	23

備 考

本表の種類數は出來うる範圍に於て網羅せりと雖も、必ずしも其全部なりと斷言するこ
とを得ざるを憾とす、特に鹿兒島縣下大島郡及熊毛郡産の甚だ貧弱なるは終に述ぶるが
如き理由の存するものにして實際更に多數を産するものと思考す。

此表によりて見るに臺灣及び琉球は東洋區に非常に多き鳳蝶科及び斑蝶科の種に富めり。
勿論鳳蝶科の或種は極めて分布廣くして此問題に關係せざるが如き感あり、而して琉球に於
ける十一種も内地の十種に比し少なきが如きも、此中には内地に見ざる種類にして熱帶地方
にのみ見るものを多く含む、就中斑蝶科の如きは内地の唯一種なるに對し臺灣の九種琉球の
九種は確かに兩地を東洋區に編入すべき理由として不可なかるべし。

而して内地本州以北を見るに、鳳蝶科の如きは十一種を數ふるも、之れ比較的寒地、朝鮮滿洲地
方に産する種類に屬し、又斑蝶科は僅かに一種を産するのみ、之に反して熱帶地方に少くして
却て寒地に多産なる小灰蝶科の種類に富むを見る、之を以て本州以北は當然舊北區に屬すべ
きは明らかなることなりとす。

然らば此東洋及舊北兩區の境界線は勢ひ琉球以北、本州以南の地に存在せざるべからず、而し
て鹿兒島縣以北の九州にありては一般に本州地方に共通なる種類多くして、南方琉球臺灣等
に産する種類と共通なるもの少し。然るに鹿兒島縣下の蝶類を見るに九州一般に共通せる

もの稍や多きも、又比較的琉球以南に産するもの少なからず、而して鹿兒島縣下にありても其離島なる熊毛郡種子島及び屋久島を含む及び大島郡(大島、徳之島、其他の島嶼を含む)にありては更に著しく南方所産のものと共通なる種類多しとす。(附圖西南列島略圖參照)

以上の表によつて見れば九州は當然舊北區に編入すべきものとす、然れども若し九州より鹿兒島縣政治上の區分にして離島を含むを分離して考ふるときは餘程東洋區の性質を帯び來るを見る。特に鹿兒島縣の中にありても熊毛郡及大島郡の如き九州本土より離れたる島嶼にありては、東洋區舊北區の兩者相錯綜し、此等の島嶼産の種類を一々調査すれば殆んど其一半は東洋區に屬し他の一半は舊北區に屬する如き觀あり。

今兩郡産の種類に就き其全産數と南北兩區に共通なるものとの數を一表にして示せば左の如し。(因に各郡の總數中には、本州より臺灣迄共通のものを含み細別は之を除外す。)

第二號 表(現在總數)

天狗蝶科	蛇目蝶科	蛺蝶科	斑蝶科	粉蝶科	鳳蝶科	熊毛郡産
1	2	10	1	7	7	熊毛郡産
1	1	2	0	4	2	内北部に 共通の種
0	0	3	0	1	0	内南部に 共通の種
1	1	6	1	3	7	大島郡産
1	0	0	0	1	1	内北部に 共通の種
0	0	3	0	1	1	内南部に 共通の種

小灰蝶科	弄蝶科	合計
7	4	39
1	1	12
1	1	6
4	3	26
0	1	4
0	1	6

此表によつて見れば大島郡及び熊毛郡産の種類は未だ甚だ貧弱なれども、兎に角一つの代表的統計として見るは支障なきものと信ず。兩郡共殆んど同様に舊北區のものと東洋區のものとの相交はるを見る、元より採集並び調査の不十分なるは言ふを俟たざれども此結果によりて推定すれば大體其自然の位置に従つて、熊毛郡は稍や九州本土に似たる點多く、大島郡は琉球に似たる所多きを知るべし、然れども大局より見れば兩郡は殆んど同一地區と看做すも差支なく、兩郡各々九州本島と琉球島との間に有する如き大差なきを知るなり。

今九州(離島を含む)に産すると知られたる蝶類にして特に鹿兒島地方に於ける分布の状況と鹿兒島縣として熊毛大島兩郡産蝶類の状況を概説すれば左の如し。(最後の目録参照)

第一 鳳蝶科

九州全部を通じて鳳蝶科の總數は十一種あり其中五種は分布の廣きものにして本州より臺灣に至る迄産するものにして此問題より除外すべきものなり、依て舊北區に屬すべきものと思考せらるゝものより擧れば、

1. *Papilio machaon* L.

キアゲハ

本種は鹿兒島縣下大島に至る迄存在すれども、九州殊に鹿兒島に於ても甚だ少なきが如し。

2. *Papilio maclentus* Jan.

ヲナガアゲハ

鹿兒島縣下に於ける蝶類の分布に就て

3. *Papilio aleinous* Klug.

シヤロウアゲン

此二種は共に鹿兒島地方に産し、更に琉球に迄及ぶものなれども、比較的少く後者は熊毛郡に産すと知らるるのも、大島郡には未だ採集せられず、前者は兩郡共に未だ發見せられざるものなり。

4. *Papilio maeki* Men.

ニヤトカラスアゲン

本種は本州より九州迄産すと云はるゝも未だ鹿兒島に於ても見られざるものなり。次に東洋區に屬するものと思考せらるるものに就て見るに

5. *Papilio mennon* L.

ナガサキアゲン

此種は鹿兒島縣には最も普通なるものにして北九州に於ても之を産すれども甚だ多からず、關門海峡以北には全く見ざるものなり、然るに琉球臺灣にては普通に見る種にして熊毛大島の兩郡よりも既に發見せられたるものなり。

6. *Papilio mihakado* Leech.

ニカドアゲン

鹿兒島縣を除きたる九州にては稀に見る種にして本縣に於ても未だ普通のもと稱するを得ず。唯五六月の頃柑橘の開花期に於て採集せらるゝなり、本種の南方の分布を見るに琉球八重山列島に最も多く、臺灣に至れば普通に産するものなり、印度地力には常に見る所なり。

第二 粉蝶科

本科の九州に産する數は總て十壹種にして、其中本州より臺灣に至る迄分布せられたる二種を除き、他の九種につき其分布の狀況を見るに、舊北區に多くして漸次南方に及べるものを擧

ぐれば、

1. *Pieris rapae* L.

ホシシロウフ

2. *Pieris melete* Men.

スヂダグロウフ

此二種は本州は勿論九州に於ても最も普通なるものにして鹿兒島縣に於ても前者は兩郡に産し後者は熊毛郡には既に見出されたり大島郡は未知數なり其より北南には産せず。

3. *Anthocharis scolymus* Butl.

シトキウフ

本種は九州一般鹿兒島地方にありては稀なれ共又熊毛郡に於ても發見せられたり。

4. *Leptida sinapis* L.

ヒメシロウフ

5. *Gonopteryx rhamni* L.

ヤキキウフ

共に本州より九州迄産すと知られたるも未だ鹿兒島地方にありては見られざるなり恐らく北九州山地に見らるゝものならん。

6. *Terias laeta* Boiscl.

シムダグロキウフ

本種は九州一圓鹿兒島地方にも産し熊毛郡にも見らるゝも同地方には稀なりと云ふ。次に東洋區に屬するものにありては

7. *Catopsilia pyranthe* L.

ウラナミシロウフ

嘗て一度北九州にて採集せられたることありと云ふ此外消息を聞かす全く南地方に限られたる品種にして琉球には稀ならずと稱せらるる本縣下の離島は之に就て何等かの決定を與ふものならんと信ず。

8. *Hebomoia glaucippe* L.

シヤムニナツ

本種は從來臺灣琉球には産すと知られたるも、其より以北には發見せられざりものなり。然るに鹿兒島縣下大島郡は尤より熊毛郡にありても普通なる種類として茲に特筆すべき價値ありと信ず。然しまだ九州本土には發見せられざるなり。然れども種子島と一小海峽を隔つる本縣の佐多岬地方には、或は既に産するや否や、未だ一回だも採集を試みざる地方なる故斷言すること能はざるも、又多少の望なきにわらず。本種は全然熱帶産のものと見るも不可なきが如し。

9. *Catopsilia elocata* Gr.

ウスギシロテフ

本種は臺灣に産すと知られたるものなるが嘗て北九州にて採集せられたり云ふ多少の疑を存して九州産中に編入す。

第三 斑 蝶 科

本科の九州に産するものは單に二種にして、然も其一種は本州より臺灣に至る迄廣く分布するものなれば之を除外し、他の一種に就き論ぜん。

1. *Danaus septentrionalis* Butl.

コモンアサギヤダウ

本種は先年唯一匹、鹿兒島高等農林學校附近にて採集せられたるのみにして、當地以外、九州は勿論熊毛大島兩郡にても未だ發見せられたることを聞かず。臺灣に於ては普通にして、琉球にも産すと稱せらる、全く東洋區に屬するものなり。

標本は本校に所藏せらるゝを以て其鹿兒島地方に存在するは確實なる事實なりとす。

第四 蛺蝶科

本科の九州に産するもの三十二種、内九種は本州より臺灣に至る迄既に其存在するを認められたるものなれども、從來其中間地方特に鹿兒島地方又は熊毛大島兩郡に發見せられざりしものを加ふることを得たる二三種あるを以て先づ之を云はん。

- | | |
|--|------------|
| 1. <i>Dichorragia neshimachus</i> Boisd. | スミナガン |
| 2. <i>Neptis aceris</i> Lep. | コニスヂ |
| 3. <i>Pyrameis indica</i> Hbst. | アカタチバ |
| 4. <i>Pyrameis cardui</i> L. | ヒメタチバ |
| 5. <i>Vanessa canace</i> L. | ムラサキタチバ |
| 6. <i>Cyrestis thydarnas</i> Boisd. | インガケラフ |
| 7. <i>Argynnis niphe</i> L. | オホウラギンウサモン |
| 8. <i>Euripus charonda</i> Hew. | ムラサキウラフ |
| 9. <i>Limenitis helmanni</i> Led. | ナガサキイサモンジ |
| 10. <i>Neptis lucilla</i> Hb. | フタスジウラフ |
| 11. <i>Vanessa xanthomelus</i> Esp. | ヒオドリクウラフ |

右の内一及び三は九州特に鹿兒島地方に産すること確實にして二六及七は鹿兒島地方及び兩郡地方にも産し、四及五は鹿兒島地方及熊毛郡地方にも發見せられたり。舊北區に屬するものと推定せらるゝものにはありては、

12. *Meletaea phoebe* Knoch. ンウモソモドキ
 13. *Argynnis anadyomene* Feld. クモガタノウモソ
 此六種は既に九州地方に産するものとして知られたるも未だ鹿兒島地方に発見せられざるものなり。

- | | |
|--------------------------------------|-------------|
| 14. <i>Apatura ilia</i> Schiff. | コムラサキ |
| 15. <i>Limnitis sibilla</i> L. | イサモンジラフ |
| 16. <i>Arascheria burejana</i> Brem. | サカハサラフ |
| 17. <i>Polygonia g-aureum</i> L. | キタラバ |
| 18. <i>Argynnis adippe</i> L. | ウラギンウモソ |
| 19. <i>Argynnis nerippe</i> Feld. | オホウラギンウモソ |
| 20. <i>Argynnis laodice</i> Pall. | ウラギンスダウモソ |
| 21. <i>Argynnis sagana</i> Dbl. | メスグロウモソ |
| 22. <i>Argynnis rusulana</i> Notsh. | オホウラギンスジウモソ |
| 23. <i>Argynnis paphia</i> L. | ミドウウモソ |

以上十種は九州一般特に鹿兒島地方に産すること明白となれり而して其中十九及び二十は縣下熊毛郡にも発見せられたり。
 次に東洋區に屬するものと思考せらるゝものにありては

24. *Hypolimnus bolina* L. ウラキウムラサキ

本種は昨年、鹿兒島縣下日置郡伊作村に於て初めて發見せられたるものにして、琉球以北には從來知られざりしものなり。然れども琉球臺灣等の南方には普通に産するものなり、而して余の發見したる品種も原種に比する時と大に異りたる點あるを認めたり。此くの如く原種と異なりたる個體に關する記載は他日發見することあるべし。

25. *Hypolimnus misippus* L.

メムアカムラキキ

本種は臺灣琉球地方にありては普通に産するものなれども、其より以北の地にありては九州にて採集せることありと云ふ。

26. *Atella phalanta* Drury.

ウラムヒウカセンモドキ

本種は其産地、琉球及九州特に鹿兒島と稱せらるゝも余は未だ採集せず。又兩郡地方にも未知のものなり、然れども其南方産たるは推定するに難からず。

27. *Junonia orithya* L.

アマタラバモドキ

28. *Junonia asterie* L.

タラバモドキ

29. *Junonia almona* L.

ムセンタラバモドキ

以上の三種は從來琉球以南に限られたる種なるも、二十七は數年來鹿兒島地方に發見せられ、又熊本大島兩郡にも其存在を認められたり。二十八は余が一昨年鹿兒島市附近にて採集せるを初めとす、而して離島なる兩郡地方にも之を産すること知られ、二十九は未だ鹿兒島地方には發見せられざるも、兩郡地方には確かに採集せられたるを知る、即ち三種共に縣下の産に加へられたる南方種なり、其仔蟲は何れも爵牀科 *Acanthaceae* の植物を食とするものなり。

第五 蛇目蝶科

此科の蝶は殆んど總て舊北區産のものゝみにして九州産の十一種中、九種迄鹿兒島地方に産することを知られたるも、二種は余の未だ見聞せざる所なり。然るに東洋區に屬するものと思はるゝ一種新たに縣下に發見せらる。

1. *Melanitis asura* Moor.

シロコノト

本種は縣下に於ては稍や普通に産すれども北九州に産することを聞かず、熊毛郡には其存在することを知らる、琉球臺灣に至れば普通に産するものなり。

第六 天狗蝶科

本科のものは唯一種舊北區所産のもの縣下一般に兩郡共産することを知らるゝに至れり。

第一 小灰蝶科

本科のものにして九州全部に涉りて産する數、十九種あり、其中六種は本州より臺灣に至る迄産するものにして除外すべきものなれども、唯だ從來特に鹿兒島産又は縣下離島に産すること知られざりしを附言するの價値あり、又殘部十三種の中六種は本州より九州に産すと知らるゝも余の未だ見聞せざるもの左の如し。

1. *Satsuma ferrea* Butl.

コシバメ

2. *Arhopala ganesa* Moor.

ルウミスシジミ

3. *Thecla nera* Jans.

ミヤマカラムシジミ

4. *Lycæna argus* L.

シジミチヲ

5. *Lycæna lycornus* Butl.

カバネロシジミ

6. *Zephyrus taxila* Brem.

フウシジミ

次に左記のものは舊北區に屬するものにして鹿兒島地方にも産することを知られたるものなり。

7. *Rapala arata* Brem.

トラフシジミ

8. *Niphanda fusca* Brem.

クロシジミ

9. *Taraka hamada* Druce.

グイシジミ

10. *Arhopala turbata* Butl.

ムラサキシジミ

尙ほ十は熊毛郡迄及ぶこと明かとなれり。

次に東洋區に屬すと推定せらるるものは、

11. *Neodryva atrata* Horsf.

ウラコモシジミ

12. *Cyaniris alboceruleus* Moor.

カシトシジミ

二種なり、前種は本縣にありても現今唯熊毛郡に於てのみ發見せられたるものにして、北九州には之を産せず、熊毛郡にありては普通に産す、而して琉球以南には最も普通なるが如し。後者は *Cyaniris argiolus* L. に酷似するも全く別種とせられ本縣鹿兒島地方の特産なりとす、而して南方にも未だ發見せられざるも個體の性狀其他より見て東洋區に屬するものと見るも不可なきが如し。

第八 弄蝶科

鹿兒島縣下に於ける蝶類の分布に就て

本科のものにして九州に産するもの十六種あり、其中三種は本洲より臺灣に至る迄産すと知られたるを以て之を除外し、殘餘の十三種に就て見るに其大部分は舊北區に屬するものと云ふを得べし即ち

- | | |
|--|-------------|
| 1. <i>Adopaea leonia</i> Butl. | スダグロチヤハネセセリ |
| 2. <i>Halpe varia</i> Murr. | コチヤバネセセリ |
| 3. <i>Parnara guttatus</i> Brem. | イチモソジセセリ |
| 4. <i>Parnara pellucida</i> Moor. | オホチヤバネセセリ |
| 5. <i>Parnara jansouis</i> Butl. | ミヤチヤバネセセリ |
| 6. <i>Daimio tethys</i> Men. | ダイニウセセリ |
| 7. <i>Hesperia maculatus</i> Brem. | チヤダラセセリ |
| 8. <i>Isoteimon lamprospilus</i> Feld. | ホソバセセリ |
| 9. <i>Thamos montanus</i> Brem. | ミヤセセリ |
| 10. <i>Angiades sylvanus</i> Esp. | コキダラセセリ |
| 11. <i>Angiades ochracea</i> Brem. | ヒメキダラセセリ |
| 12. <i>Ismene aquilina</i> Sper. | キバネセセリ |

此十二の中一乃至五、八及十二は本洲より九州に産するは勿論、又鹿兒島地方にも存在すると明かにして、六は大島郡よりも發見せられたり、七及九乃至十一は九州に産すと云はるゝも鹿兒島地方に於て余はまだ見聞せざるなり。

更に東洋區に屬するものと思考せらるゝものを見るに

13. *Notoocypta curvifascia* Feld.

クマセセウ

本種は北九州には稀にして本州には存在せず、縣下にありては熊毛大島兩郡に産し日蔭の濕潤なる山地に於て多く見る所なり、而して球求臺灣にありては普通に産するものなり。

此他 *Rhopalocampa benjamini* Guer. の如きも本州より臺灣に涉り産すれども、本州にては稍や珍種に屬す、然るに本縣及び以南の地にありては普通に産するものなり。

上述の如く本縣下には比較的南方、琉球及臺灣地方に産するものと共通なる種類に富み、本縣下にありても特に熊毛郡大島郡地方にありては東洋區に産するものと共通なるもの多し、元より此共通の數のみによるは確かなと云ふを得ず、何となれば兩郡地方に産するものは未だ其採集品甚だ乏しきを以てなり。

既述の如く大島郡産の總數は二十七種にして熊毛郡産のものは三十九種なり。此等の内より九州本土より琉球臺灣に迄分布するものを除けば、大島郡は十種、熊毛郡は十八種となる、之を各別に九州本土に共通なるもの及び琉臺に共通なるものとに區分すれば、(第二號表参照)大島郡は北方種に共通なるも四種、南方種に共通なるもの六種となり、熊毛郡は北方種に十二、南方種に六種共通となる。即ち熊毛郡は其三分の二北方種にして、大島郡は過半数南方種なり。然るに此差異は熊毛郡の九州本土に多く接近せるとの理由あらんも、又比較的大島郡よりの採集品少數なること與つて力ありと云ふを得べし。今若し兩郡共更に發見せらるべき望ある種類即ち熊毛郡にありては北方種にして既に大島郡以南に現存して未だ熊毛郡に採集せ

られざる種類、又大島郡にありては南方種にして既に熊毛郡以北に發見せられたるも、未だ大島郡に於て其存在を認められざるもの等を兩郡現在の種類に加へ、而して其豫定の南方種及北方種の兩郡に於ける總數を見るに(第三號表参照)大島郡は北方種に共通なるもの九種なるに南方種に共通のもの十六種あり、即ち南方種は六割四分に當り、熊毛郡にありては、北方種に共通なるもの十四種にして、南方種に共通なるもの十六種あり、即ち南方種は五割三分餘に相當するなり。(注意、第三號表と第二號表と同一の條件にて編成せり。)

第三號表(豫定總數)

鳳蝶科	粉蝶科	斑蝶科	蛺蝶科	蛇目蝶科	天狗蝶科	小灰蝶科	弄蝶科	合計	熊毛郡産	内北部に 共通の種	内南部に 共通の種	大島郡産	内北部に 共通の種	内南部に 共通の種
10	8	2	17	3	1	10	7	58	10	3	2	10	3	2
3	3	0	3	1	1	2	1	14	3	3	0	3	1	2
2	2	1	6	1	0	2	2	16	2	2	1	2	2	2
10	5	2	15	3	1	9	7	52	10	3	2	10	3	2
3	1	0	1	1	1	1	1	9	3	1	0	1	1	1
2	2	1	6	1	0	2	2	16	2	2	1	2	2	2

以上述べ來りたる所によりて見れば此調査の結果鹿兒島縣下全般を通じ從來未だ知られざりし東洋區産の種類を増加し、鹿兒島地方(九州本土に屬する分)のみを以て見るも、大に東洋區の性質を帶び來れるを知る。而して縣下の離島に於ては特に著しき傾向あるを見るなり。元より材料となる可き採集品の少き今日に於て決定的論結を得ること能はず、又此の如きは早計たるやの感あれども、既知の事實と將來此等の離島に於て採集せらるべき見込ある種類の趨性と及び自然の地理的位置によりて推定を下すも不可なかるべしと信ず。此點に關し青木理學士が嘗て哺乳動物の分布狀況に就て論ぜ(動物學雜誌三百號)られたる所見は、余も亦同感にして採集物の尠少なるは大に遺憾とする所なり。而して蝶は鳥類及び蝙蝠類と同じく、其移動器の他動物に比し優越せるにより間々其分布區域の混亂することなきにあらざ、即ち比較的近距离にある縣下の熊毛郡、大島郡及び琉球諸島の間において、自然の地理的障礙は相互の間殆んど同等なるを以て、境界線の解決には甚しく困難を感ずるなり。元より蝶類のみを以て一般動物の分布區域を決定せんことの不可能なるは明白にして、又余は茲に之が解決を試みんとするにあらず、要は單に蝶類に就てのみ其比較的東洋區のものを多産する地方と、舊北區に屬する種類に富む地方とを區別せんとするなり。青木理學士の推定によれば「結局此境界線は屋久島と大島との間に假設せらるる理である」。蝶類に就ても、現在余の調査せる結果によれば同一の假定を下すことを得べしと信ず。即ち鹿兒島縣下の蝶類は、從來より一層、東洋區の種類に豊富なるを明かにせられたると共に、熊毛郡は舊北區の種類多くして東洋區の種類少く、大島郡は舊北區の種類少くして東洋區の種類多しとす。但し余は茲に附

言せんとす、既述の如く鹿兒島縣は兩區産の種類相混合し、若し霧島山以北の九州本土と其以南の九州即ち九州本土に屬する大部分の鹿兒島地方とを區分すれば、蝶類の分布上多少趣を異にするを見る。故に舊北區と東洋區との境界線は確かに鹿兒島縣下の内に存住すること疑を容れざるなり。而して若し今後熊毛郡及大島郡所産の蝶類余の推定總數に達することあらば或は此境界線は更に少しく北上して九州本土と熊毛郡種子島との間に推移するやも計られざるなり。熊毛郡の總豫期數五十八種及び大島郡の總豫期數五十二種は、之を現在琉球の總數六十六種及び鹿兒島地方の總數七十三種に比し、誠に相應なる數と云ふを憚からざるなり。

要之、本問題の解決は至難の事にして到底今直ちに斷定すること能はず、又斯くの如きは稍々大膽に過ぐるの誹を免れざるを以て、單に一假説に止め、他日識者の闡明せられんことを期待するものなり。

次表は鹿兒島縣下の蝶類分布の狀況を示すと共に、琉球臺灣より九州及本州に涉りて分布せるものゝ狀況を表はさんと欲す。

此調査は充分の暇なく、又材料極めて乏しく、従て余自身の調査せる部分甚だ少し即ち、主に日本蝶類圖説、千蟲圖解及び動物學雜誌等の記載を緯とし、之に鹿兒島縣下産のものは岡島教授、堀井助手の調査せられたるもの及び余の直接採集見聞せるもの、琉球臺灣産のものは余自ら旅行採集せるもの等を經として編成したるものなり。（大正六年三月稿）

鹿兒島縣下を中心とする蝶類分布表

I. Papilionidae 鳳蝶科		臺灣	琉球	大島	熊毛	鹿兒島	九州	本州
<i>Papilio xuthus</i> L.	あげは	○	○	○	○	○	○	○
<i>Papilio machaon</i> L.	きあげは	—	—	○	○	○	○	○
<i>Papilio bianor</i> Cr.	からすあげは	○	○	○	○	○	○	○
<i>Papilio demetrius</i> Cr.	くろあげは	○	○	○	○	○	○	○
<i>Papilio helenus</i> L.	もんきあげは	○	○	○	○	○	○	○
<i>Papilio memnon</i> L.	ながさきあげは	○	○	○	○	○	○	—
<i>Papilio macilentus</i> Jan.	なながあげは	—	○	—	—	○	○	○
<i>Papilio alcinous</i> Klug.	じやこうあげは	—	○	—	○	○	○	○
<i>Papilio polytes</i> L.	しろおびあげは	○	○	—	—	—	—	—
<i>Papilio dosen mikado</i> Leech.	みかどあげは	○	○	—	—	○	○	—
<i>Papilio sarpedon</i> L.	くろたいまい	○	○	○	○	○	○	○
<i>Papilio aristolochiaere</i> F.	べにもんあげは	—	○	—	—	—	—	—
<i>Papilio maacki</i> Men.	みやまからすあげは	—	—	—	—	—	○	○
II. Pieridae 粉蝶科								
<i>Pieris rapae</i> L.	もんしろてふ	—	—	○	○	○	○	○
<i>Pieris melete</i> Men.	すぢぐるてふ	—	—	—	○	○	○	○
<i>Pieris canidia</i> Spar.	たいわんもんしろてふ	○	○	—	—	—	—	—
<i>Anthocharis scolymus</i> Butl.	つまきてふ	—	—	—	○	○	○	○
<i>Lepitida sinapis</i> L.	ひめしろてふ	—	—	—	—	—	○	○
<i>Colias hyale</i> L.	もんきてふ	○	○	—	○	○	○	○
<i>Terias hecabe</i> L.	きてふ	○	○	○	○	○	○	○
<i>Terias laeta</i> Boisd.	つまぐるきてふ	—	—	—	○	○	○	○
<i>Catopsilia pyranthe</i> L.	ふいりっんびてふ	○	○	—	—	—	○	—
<i>Catopsilia crocale</i> Cr.	うすきしろてふ	○	—	—	—	—	○	—
<i>Appias melania</i> F.	なみえてふ	—	○	—	—	—	—	—
<i>Appias libythea</i> Mats.	やへやましろてふ	○	○	—	—	—	—	—
<i>Gonopteryx rhamni</i> L.	やまきてふ	—	—	—	—	—	○	○
<i>Hebomoia glaucippe</i> L.	つまべにてふ	○	○	○	○	—	—	—
III. Danaidae 斑蝶科								
<i>Caduga tylia</i> Gray.	あさぎまだら	○	○	○	○	○	○	○
<i>Caduga lochooana</i> Moor.	おきなばあさぎまだら	—	○	—	—	—	—	—
<i>Limnas chrysippus</i> L.	かばまたら	○	○	—	—	—	—	—
<i>Salatura genntia</i> Cr.	すぢぐるかばまだら	○	○	—	—	—	—	—

		臺灣	琉球	大島	熊毛	鹿兒島	九州	本州
Anosia merippe Hb.	おほかばまだら	—	○	—	—	—	—	—
Euploea kuroiuae Mats.	くろいはまだら	—	○	—	—	—	—	—
Radena vulgaris Butl.	りうきうあさぎまだら	○	○	—	—	—	—	—
Tirumula septentrionalis Butl.	こもんあさぎまだら	○	○	—	—	○	—	—
Nectaria leuconoe Erich.	おほごまだら	○	○	—	—	—	—	—
IV. Nymphalidae 蛺蝶科								
Kallima inachis Baisd.	このはてふ	○	○	—	—	—	—	—
Eriboea eudamippus Dbl.	ふたをてふ	○	○	—	—	—	—	—
Hypolimnus bolina L.	りうきうむらさき	○	○	—	—	○	—	—
Hypolimnus misippus L.	めすあかむらさき	○	○	—	—	○	—	—
Athyma opalina Koll.	やへやまいちもんじ	—	○	—	—	—	—	—
Dichorragia nesimachus Boisd.	すみながし	○	○	—	—	○	○	○
Euripus charonda Hew.	むらさきてふ	—	—	—	—	○	○	○
Hestina assimilis L.	あかほしごまだら	○	○	—	—	—	—	—
Apatura ilia Schiff.	こむらさき	—	—	—	—	○	○	○
Limenitis sibilla L.	いちもんじてふ	—	—	—	—	○	○	○
Limenitis helmanni Led.	ながさきいちもんじ	—	—	—	—	—	○	—
Neptis pryeri Butl.	ほしみすぢ	—	—	—	—	—	○	○
Neptis lucilla Hb.	ふたすぢてふ	—	—	—	—	—	○	○
Neptis hylas L.	こみすぢ	○	○	○	○	○	○	○
Neptis eurynome West.	りうきうみすぢ	○	○	—	—	—	—	—
Pyrameis indica Hbst.	あかたてば	○	○	—	—	○	○	○
Pyrameis cardui L.	ひめたてば	○	○	—	○	○	○	○
Vanessa xanthomelus Esp.	ひおどしてふ	—	—	—	—	—	○	○
Vanessa canace L.	むらさきたてば	○	○	—	○	○	○	○
Cyrestis thyodamus Boisd.	いしがけてふ	○	○	○	○	○	○	○
Arachnia burejana Brem.	さかはちてふ	—	—	—	—	○	○	○
Atella phalanta Drury.	うらべにへうもんもどき	—	○	—	—	—	○	—
Melitaea phoebe Knoch.	へうもんもどき	—	—	—	—	—	○	○
Melitaea athalia Rott.	こへうもんもどき	—	○	—	—	—	○	○
Polygonia c-aureum L.	きたてば	—	—	—	—	○	○	○
Diagora sabviridis Leech.	ごまだらてふ	○	—	—	—	○	○	○
Junonia orithya L.	あなたてばもどき	○	○	○	○	○	—	—
Junonia asterie L.	たてばもどき	○	○	○	○	○	—	—
Junonia almona L.	むもんたてばもどき	○	○	○	○	—	—	—
Junonia lemonias L.	じやのめたてばもどき	○	○	—	—	—	—	—
Argynnis adippe L.	うらぎんへうもん	—	—	—	—	○	○	○

		臺灣	琉球	大島	熊毛	鹿兒島	九州	本州
<i>Argynnis nerippe</i> Feld.	おほうらぎんへうもん	—	—	—	○	○	○	○
<i>Argynnis laodice</i> Pall.	うらぎんすぢへうもん	—	—	—	—	○	○	○
<i>Argynnis rulsana</i> Notsh.	おほうらぎんすぢへうもん	—	—	—	—	○	○	○
<i>Argynnis sagana</i> Dbl.	めすぐるへうもん	—	—	—	○	○	○	○
<i>Argynnis anadyomene</i> Feld.	くもがたへうもん	—	—	—	—	—	○	○
<i>Argynnis niphe</i> L.	つまぐるへうもん	○	○	○	○	○	○	○
<i>Argynnis paphia</i> L.	みどりへうもん	—	—	—	—	○	—	○
V. Satyridae 蛇目蝶科								
<i>Satyrus dryas</i> Scop.	じやのめてふ	—	—	—	—	○	○	○
<i>Ypthima argus</i> Butl.	ひめうらなみじやのめ	—	—	—	—	○	○	○
<i>Ypthima matschulski</i> Br. et Gray.	うらなみじやのめ	—	—	—	—	○	○	○
<i>Ypthima riukiwana</i> Mats.	りうきううらなみじやのめ	—	○	—	—	—	—	—
<i>Parage epaminondus</i> Stgr.	きまだらもどき	—	—	—	—	—	○	○
<i>Neope gaschkevitschii</i> Men.	きまだらひかげ	—	—	—	—	○	○	○
<i>Lethe diana</i> Butl.	くるひかげ	—	—	—	—	○	○	○
<i>Lethe sicelis</i> Hew.	ひかげてふ	—	—	—	—	—	○	○
<i>Mycalesis perdiccas</i> Hew.	こじやのめ	—	—	—	—	○	○	○
<i>Mycalesis gotama</i> Moor.	ひめじやのめ	—	○	—	—	○	○	○
<i>Melanitis leda</i> L.	このまてふ	○	○	○	○	○	○	○
<i>Melanitis aswa</i> Moor.	くるこのま	○	○	—	○	○	—	—
VI. Lemonidae 天狗蝶科								
<i>Libythia celtis</i> Laid.	てんぐてふ	—	—	○	○	○	○	○
VII. Lycaenidae 小灰蝶科								
<i>Dendorix arata</i> Brem.	とらふししみ	—	—	—	—	○	○	○
<i>Satsuma ferrea</i> Butl.	こつばめ	—	—	—	—	—	○	○
<i>Niphanda fusca</i> Brem.	くるししみ	—	—	—	—	○	○	○
<i>Arhopala japonica</i> Murr.	むらさきししみ	○	—	○	○	○	○	○
<i>Arhopala turbata</i> Butl.	むらさきつばめ	—	—	—	○	○	○	○
<i>Arhopala ganesa</i> Moor.	るみすししみ	—	—	—	—	—	○	○
<i>Curetis acuta</i> Moor.	うらぎんししみ	○	○	○	○	○	○	○
<i>Thecla mera</i> Jans.	みやまからすししみ	—	—	—	—	—	○	○
<i>Lahera eryx</i> L.	いはかはししみ	—	○	—	—	—	—	—
<i>Chrysophanus phlaeas</i> L.	べにししみ	—	○	—	—	○	○	○
<i>Polyommatus boeticus</i> L.	うらなみししみ	○	○	○	○	○	○	○
<i>Nacaduva atrata</i> Horsf.	うらこもんししみ	○	○	—	○	—	—	—

		臺灣	琉球	大島	熊毛	鹿兒島	九州	本州
<i>Lycaena argiades</i> Pall.	つばめしっみ	○	—	○	○	○	○	○
<i>Lycaena argus</i> L.	しっみてふ	—	—	—	—	—	○	○
<i>Lycaena pryri</i> Murr.	うらごまだらしっみ	—	○	—	—	—	—	—
<i>Lycaena beroë</i> Feld.	へりほししっみ	—	○	—	—	—	—	—
<i>Lycaena lycornus</i> Butl.	かばいるしっみ	—	—	—	—	—	○	○
<i>Pethecopis hylax</i> F.	おきなはからすしっみ	—	○	—	—	—	—	—
<i>Cyaniris argiolus</i> L.	るりしっみ	○	—	—	—	○	○	○
<i>Cyaniris albocaerulens</i> Moor.	さつましっみ	—	○	—	—	○	—	—
<i>Zizera maha</i> Koll	やまとしっみ	○	○	○	○	○	○	○
<i>Taraka hamada</i> Druce.	ごいししっみ	—	—	—	—	○	○	○
<i>Zephyrus taxila</i> Brem.	みどりしっみ	—	—	—	—	—	○	○
VIII. Hesperidae 弄蝶科								
<i>Adopaea leonina</i> Butl.	すぢぐるちやばねせり	—	—	—	—	○	○	○
<i>Padraona flava</i> Murr.	きまだらせり	○	—	—	○	○	○	○
<i>Halpe varia</i> Murr.	ちやばねせり	—	—	—	—	○	○	○
<i>Parnara mathias</i> F.	ちやばねせり	○	○	○	○	○	○	○
<i>Parnara guttatus</i> Brem.	いちもんじせり	—	—	—	—	○	○	○
<i>Parnara pellucida</i> Murr.	おほちやばねせり	—	—	—	—	○	○	○
<i>Parnara jansonis</i> Butl.	みやまちやばねせり	—	—	—	—	○	○	○
<i>Notocrypta curvifascia</i> Feld.	くるせり	○	○	○	○	○	○	—
<i>Celoenorhinus asmara</i> Butl.	こもんくるせり	—	○	—	—	—	○	—
<i>Udaopes folus</i> Cr.	おほしるもんせり	○	○	—	—	—	—	—
<i>Rhopalocampta benjamini</i> Guer.	あなばせり	○	○	—	○	○	○	○
<i>Hasora chromus</i> Cr.	びろうどせり	○	○	—	—	—	—	—
<i>Saturpa tethys</i> Men.	だいめうせり	—	—	○	—	○	○	○
<i>Hesperia zoma</i> Mab.	ちやまだらせり	—	—	—	—	○	○	○
<i>Isoteinon lamprosilus</i> Felb.	ほそばせり	○	—	—	—	○	○	○
<i>Thanaos montanus</i> Brem.	おほちやまだらせり	—	—	—	—	—	○	○
<i>Augiades sylvanus</i> Esp.	こきまだらせり	—	—	—	—	—	○	○
<i>Augiades ochracea</i> Brem.	ひめきまだらせり	—	—	—	—	—	○	○
<i>Ismene aquilina</i> Sper.	きばねせり	—	—	—	—	○	—	○